

## 開催報告 支部学術集会

### 第7回神奈川地方会

テーマ：医療の実践からマネジメントを考えるー原点に立ちかえってー  
当番世話人：伊勢原協同病院病院長 別所 隆

平成20年3月8日(土)に伊勢原市フォーラム246において、約400名の参加のもとで開催されました。

特別講演は、聖路加看護大学学長、日本看護協会副会長 井部俊子先生「リーダーは学習する組織をつくる」で、パネルディスカッションは「医療の質向上における看護師の役割」を実施しました。一般口演29題、ポスターセッション17題の発表がありました。

参加者の多い看護師に焦点を向けて特別講演、パネルディスカッションを企画しました。両者ともに学会テーマに沿い、医療現場での実践における職員の育成、チーム医療の重要性が論じられました。その他の演題においてもテーマに沿って活発なディスカッションが行われました。

### 第15回静岡県地方会

当番世話人：静岡赤十字病院整形外科部長 濱田一壽



会場風景

第15回日本医療マネジメント学会静岡県地方会は平成20年8月2日(土)171名の参加を得て開催されました。当地方会ではクリティカルバスの標準化を目指してテーマを絞りクリティカルバス展示・

討論会を行っておりますが、今回は「前立腺がん」「糖尿病教育入院」「地域連携脳梗塞」の3テーマで行いました。座長の進行で、参加施設から提示されたクリティカルバスをもとに各項目の内容が討論されましたが「前立腺がん」はほぼ標準化されていました。また、3テーマはいずれも全国的に地域医療連携が進展している分野であり、今後「脳梗塞」以外のものも「地域医療連携クリティカルバス」として討論することにつながると思われました。口演発表は「医療連携／多職種協働によるクリティカルバス(医療)への取り組み」をテーマに、病院と診療所間または院内の部門間でのクリティカルバスの運用・評価・修正あるいはクリティカルバスを用いた医療連携、業務分析・改善等11演題が発表されました。討論会、口演発表をとおして「クリティカルバスの充実と医療の標準化、地域医療連携」がますます発展してきていることが感じられました。学会に参加された方、ご協力いただいた方々に感謝致します。

(文責：静岡赤十字病院看護副部長 山地啓子)

### 第6回高知県地方会

当番世話人：高知県立安芸病院院長 森田英雄



会場風景

第6回日本医療マネジメント学会高知県地方会は、平成20年8月23日(土)、高知市文化プラザかるぼーとで開催され、337名の参加がありました。

特別講演は、高知大学学長 相良祐輔先生に「現場から

の医療のあり方ーチーム医療を考えるー」というテーマで講演をいただきました。「病める人のための医療とは何か」を考え続けることにより医療人としての哲学を持つことの重要さや、時代の風潮に翻弄されがちな医療従事者のあるべき姿をお示しいただき、深く感銘を受けました。

研修講演は、国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官 森兼啓太先生から「院内感染対策アップデート」と題してご講演いただきました。院内感染症に対する新たな考えをお示しいただき、今後の感染対策に大変参考になりました。

一般演題は、医療安全・クリティカルバス・医療連携・感染対策・患者サービス等38題の発表があり、活発な討論が行われました。参加者・発表者とも増加し、所属医療機関も広がっています。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。開催の報告とさせていただきます。

### 第4回広島支部総会

支部長：県立広島病院院長 大濱紘三



会場風景

平成20年9月6日(土)、広島大学霞キャンパスの広仁会館で第4回広島支部総会を開催しました。基調講演として、参議院議員・内科医師 梅村聡先生をお招きし「どうなる日本の医療?～医師としての立場と

政治家としての立場から～」と題し、今後の医療政策について述べて頂きました(座長 県立広島病院 大濱紘三)。

講演では、広島大学病院 総合診療科教授 田妻進先生をお招きし、「地域医療を守るためには?～臨床研修と専門医養成における大学病院の役割～」と題して、医師確保の重要性について述べて頂きました。また、広島国際大学医療福祉学部 医療経営学科准教授 谷田一久先生の講演では、「医療を守るために～今後の在り方について考える～」と題して、医療の特性・保険者の当事者意識についても言及した内容でございました(座長 広島記念病院 中井志郎)。

続いて、医療安全シンポジウムでは「立会い規制のその後 広島県下の状況(最新)」のテーマで、広島支部が実施し